

## 2022 年度 第 12 回定例理事会議事録

日 時:2023 年 2 月 16 日(木) 13:30-15:30

場 所: ピアマリン 1 階 日本人会ミーティングルーム (Web 参加あり)

会議出席者:(理事) 青木、権田、羽賀、野口、武石、渡辺た、八巻、スミス、山口、柴垣、井上

※リモート参加 須永、パサワー、佐藤、金澤

傍聴: 事務局 2 名

欠席: 粟田、渡辺な

議 題:

### 1. 活動報告

#### (1) 青年部(武石部長)

・秋祭りの事後対応について

・<質疑応答・意見>

・Slack の有料ユーザー数は 15 人分残す必要はなく、1 人分だけで十分ではないか。

→1 人分だけ残すということが出来るのか次回の理事会までに確認する。

#### (2) 商工部・文化部(渡辺部長、須永部長)

・バザー開催について

➢ 十分に準備を行う時間がない為、今期は開催を見送る。しかし、開催の意義は日本人コミュニティにとって重要。開催は来期でもよいのであるべく準備を進めておく。尚、準備に 3~4 カ月掛かると予想される為、開催は来期の 6 月か 7 月になると見込まれる。

→今季のバザー開催は見送ること、バザー開催予算として見込んでいた 6,080 ドルは日本人学校へ寄付することが日本人会理事会で承認された。

・<質疑応答・意見>

・秋祭りはグアム政府機関からの多大な支援があった。今回、バザー開催予算を日本人学校に寄付するとのことであるが、日本人学校だけではなく行政機関に寄付するのよいのではないか。

→秋祭り開催後、当日の支援の対価として警察及び公園局へは支払い及び物資の寄付を行った。仮にグアム政府に寄付を行ったとしても、Revenue and Taxation の収入になるだけで、秋祭りの際に支援を行って頂いた各行政機関に行き渡らない。

→正当な対価に対する支払いは良いが、そもそも政府機関へ寄付を行うこと自体がコンプライアンスの面で良くないのではないか。

→警察へはパイロンバーを寄付した。お金ではなく物資の寄付であればお互いによいのではないか。

→各企業からは、「秋祭りと 50 周年記念事業への協賛が目的・秋祭りの剰余金は学校への寄付」と、用途を明確にしてスポンサーを募ったので、それを、事前に表明していない用途(行政機関へ

の寄付)に回すのは、寄付元としても困るはず(我々の依頼状(使用目的が書いてあるもの)を証拠書類として会計処理をしているはずなので)。

⇒今回は検討時期が遅かったが、今後は日本人会として行政機関に何かしらの寄付を行うことも検討していくのも良いのではないか。

・GCWC の年会費について

- 次年度も参画を継続し、年会費 40 ドルを支払うことが日本人会理事会で承認された。

(3)総務部(羽賀部長)

・定時総会について

- 定時総会は 4 月 21 日(金)17 時から 18 時半、第 14 回日本人理事会は 15 時から 16 時半に開催したい。

・<質疑応答・意見>

・理事会は 1 時間半も必要か。業務の都合もあるので、もう少し開催時間を遅らせてほしい。また、総会を 1 時間半で収めるためには議事の進行に工夫が必要だと思う。

→昨年の理事会は各部の資料をそのまま読んでいたため時間が掛かった。事前に資料配布を行い、各部長がポイントを絞って発表すれば時間の節約につながると思う。

→コロナ明け 1 回目の開催ということもあり、久しぶりに会う方々が懇談をしていた為、開始までに時間が掛かったという側面もあった。

⇒配布資料をそのまま読むのではなくポイントに絞って発表してもらい、時間の節約に努める。また、第 14 回理事会の時間短縮については、第 13 回理事会の状況を踏まえて検討する。

・総会後に第 1 回理事会を行うので、その時間の確保も必要ではないか。

→18 時半から 19 時まで第 1 回理事会を行う。

・会社での人事異動後は島外在住となり会員要件から外れるが、島外からオンラインで総会に参加可能か。

→島から離れて 1 か月未満であり、会員期間(4/1~3/31)の大半(9 割以上)を島内在住ということで満たしているのであれば、会則をクリアしているとみなしても良いと考える。については、総会参加者の条件である島内在住者という規定を満たしていると考え、参加して頂いても OK と整理したい。

⇒4 月 21 日(金)の定時総会の開催は日本人会理事会で承認された。尚、新旧理事監事懇親会の費用は個人負担とすることも合わせて承認された。

・会則の改正について

・<質疑応答・意見>

・島外サポーターは何人いて、どなたか。

⇒島外サポーターは 2 名(議事録上では個人情報のため、個人名は省略)。島外サポーターという会員資格は、島を離れて定時総会での議決権もないにも関わらず、年会費 40 ドルを支払ってくれて

いる方々のために設けることがコロナ前に日本人会理事会で承認されていた。しかし、コロナの混乱もあり、正式に会則に追加されていなかった為、今回追加を行いたい。

・理事会の人数を減らすことに関連して、商工部はそのまま残すのか。日本人学校の経営が苦しく、日本人会理事会として、学校関係に力を注がなければならない中、商工部をなくしてその分の力を学校関係にフォーカスしてもよいのではないか。今期に取ったアンケート結果からも分かるように、ニーズはあまりなかった。

→以前に商工部を担当していたが、新しくグアムに出店した方などに税金についての座談会等を行った。そしてレポートを作成して皆さんに配布した。必要性はあるのではないか。

→商工部を立ち上げた目的は法人向けの情報提供/交換や懇親の機会提供等を行うため。しかし、その時々ニーズに合わせて組織は変更してくのも一案である為、商工部をなくすのもよい。ただ、日本人会に求められるものは学校関連だけではない為、形にとらわれることなくそういった場を提供していくことも必要。

→会員に対して、還元していくことは今後も考えていかなければならないが、優先順位を考えると商工部をなくすこともあり。

→文化・商工部として残すと人数を減らすこともできる上に、上記のニーズにも対応できる。

→理事の皆さんも業務都合があると思うため、日本人会理事会として対応することを絞ることは必要。文化・商工部として門は広く構えておいて、人数構成等は次期に任せるのもよい。

→今期は商工部と文化部合同で動いていたが、1つのチームとして良い結果を残していた為、文化・商工部としてひとまとめにすることに違和感はない。

→文化・商工部として窓口を広くして活動することは良いと思う。名前は文化・商工部にこだわる必要はない。イベントの際には秋祭りと同様で、文化・商工部の部員のみで動くのではなく、理事会みんなで動いたほうが良い結果につながると思う。

⇒文化部と商工部を統合する方向で動く。部名と会則に記載する職務内容は次回の理事会で検討する。

・会則改正案の中で理事の総数を12名とした理由は、10名だと減らしすぎだという印象で受け止められ、総会で難しい論議となる可能性がある為。また、理事の方々がオフアイランドの為、理事会開催が定数割れとなってしまうことを懸念したときに12名がちょうどよいと考えた。

⇒今回、監事が2名とも欠席しており、監事に関する記載の改定部分は次回理事会での協議事項に繰り延べる。島外サポーターに関する記載、定数12名への変更は承認。次回、文化部・商工部の統合に関する変更と、監事の任期につき協議を行う。

・選挙管理委員会の構成員等について

- 日本人会理事会で選挙管理委員の構成員およびスケジュール等について、日本人会理事会で承認された。

(4) 渉外広報部(パサワー部長)

・SNSの活用について

・<質疑応答・意見>

・先日のインスタ記事(事務局の本の販売)の掲載について誤りがあったが、今後の対策はどうするのか。

→今後は間違いを防ぐために必ずアップ前にチェックを行う。

・インスタと Facebook の活用方法が不明確である。

→活用方法は前回の理事会で報告済み。対象は日本人会の会員が第一であるが、グアム在住のローカルの方々も対象としている。現在はローカルの方からのフォローの方が多い。インスタと Facebook では日本語が英語に同時通訳されるが、訳し方に問題がある為、自分たちで英語でもアップを行っていく。

→日本人会員の皆さんにグアム生活のヒントになる情報を提供できるもの、且つ、娯楽を提供できるツールとして活用していく。また、グアム在住で日本人会会員ではない日本人の方々に、最終的には日本人会に入会して頂くのが目的。ローカルの方々には日本人会主催のイベントを身近に感じてもらうための知名度の構築を行うことが目的。

→Facebook は秋祭り用だけではなく、年間を通じて使用していく。

→日本人会の SNS は日本人会の活動に興味をもってもらうということが出来ていれば、十分に目的は果たしていると思う。

(5)会計部(八巻部長)

・2022 年度活動予算実績管理について

➢ 業者変更に伴い滞っていた会計サービスが再開し、予算実績のアップデートも現時点まで追いついた。

➢ 現時点での日本人会の今期の収支は、収入が約 350,000 ドル、支出が約 260,000 ドルで、約 88,000ドルのプラスとなっている。秋祭りで約 75,000ドルのプラス、チャリティゴルフで約 11,000ドルのプラスとなっている側面が大きい。

・<質疑応答・意見>

・2022 年度の最終決算の見通しはどうか。

→2022 年度の最終収支予想では 55,000ドルのプラスとなり、期末キャッシュ残高は約 300,000ドルとなる見込み。

・日本人学校に対して、チャリティーゴルフの寄付を 1 月の新年会で行ったが、予算実績管理表のどこに反映されているのか。

→1 月の新年会では目録の贈呈のみを行った。実際のチェックは 2 月に切る予定の為、まだ予算実績管理表には反映されていない。

・チャリティーゴルフ、秋祭り等日本人学校への寄付念頭の事業収益がない場合、収支は約 10,000ドルのマイナスとなるが、どのように改善すべきか。

→会員数が減っているという側面を考えると、収支改善を行うには会費を上げるしかないのではないか。

- 会員増に向けて、会全体で会員になっていない方々へ声掛けする必要がある。
- 在留届を出している人数の4分の1しか会員になっていない為、会員を増やす余地はまだある。
- 日本人学校に来る保護者への勧誘を以前は行っていた。最近はそのような声はない為、声掛けをするのもよい、というかすべきではないか。
- ⇒保護者が集まる場で、学校理事会(会長、副会長)から勧誘アピールを行ってもらう。
- ・2022年度最終収支資料の中で、2月度に6,080ドルが支出予定となっているが、バザー中止に伴い、この資料の中では秋祭りの収入部分に一旦戻す。
- ・新年会で募った募金の半分は日本人会の50周年記念事業向けに予算化し、残り半分は学校の寄付に回す予定。

#### (6)50周年記念事業(野口部長)

- ・50周年記念誌制作の現況について
  - 日本人会理事会での多数決の結果、ブーゲンビリアの写真が一面となっているデザインが表紙、ブロック写真が組み合わさったデザインが裏表紙に決まった。
  - デザイン費用は約8,000ドル、印刷費用が約3,000ドルで、費用の合計は約12,000ドル以内には収まる見込み。広告及び販売代で10,800ドルの収入が見込まれる為、単体では1,200ドルのマイナスだが、ドネーション収入を考慮すると約1,800ドルのプラスとなる。
  - 発行は総会までに間に合うようなスケジュールで進めている。

#### (7)その他1

- ・領事館から依頼があった Talented Young Youth の選出について
  - 各エスニックコミュニティから音楽の才能等がある若い世代の人材を選出して、議会の前で演奏してもらい、助成金の獲得につなげる試み。日本人会として対応するのであれば、日本人コミュニティから若いタレントを選出して、領事館から推薦してもらうことになる。
- ・<質疑応答・意見>
  - ・領事館から日本人会に依頼があったのか。
  - 依頼があった。
  - オーディションの日程が決まっているのであれば、ウェブサイトでの応募はできるのではないかと。
  - 日本人会としてタレントの選出は難しいが、情報発信ならできるのではないかと。
  - ⇒日本人会には誰がどのような活動を行っているといったデータベースもなく、期限まで時間も無い為、対応は難しいという方向で回答する。
- ・トルコ・シリア地震に対する寄付活動について
  - 日本での大型地震に対しては、基本的に日本人会として寄付活動は行って来た。諸外国でも中国四川とパキスタンの地震では寄付を募った。

・<質疑応答・意見>

・寄付先はどこか。

→それを確認してから情報発信する

→過去の諸外国への寄付は赤十字を通して行った。

⇒今回の地震に対して、日本人会として寄付活動は行う。詳細は後ほど総務部で決める。

・JCBからのマッサージチェアの寄贈について

➤ 各理事からの意見を総務部長へ伝えてもらい、最終判断は会長が行う。

(8)教育部(権田部長)

・日本人学校理事会の報告

・<質疑応答・意見>

・事務長のリクルートはどのような状況か。

→1名候補者がいる。アカウンティングの知識がある。グアムに来て間もないため、新鮮な気持ちで見てもらえるのではないか。全日制校長、現事務長から職務等について説明を行う予定。

・ガバメントへの寄付申請はどうなったのか。

→今後行う。事務局で対応するということを前提で、且つグアム政府からの支援ももらったうえで今後も続ける予定。

・2023年度の予算はどこで承認されるのか。

→3月の学校理事会で承認予定。

・前回の学校理事会は、財政の問題、PTAの問題等、各問題で平均的に時間が掛かった。各チームとして練り上げたものを理事会で発表していかないと、今後も理事会は長くなると予想される。全日制校長、補習授業校校長、事務局等を絡めて状況を改善していくといった方向性は見えてきた。

・数字の面で事務局がきちんと理解しているのかという問題がある。現状、業務が事務局長一点集中となっているのも問題。日本人学校の中の権限規定が明確ではなく、つきつめていくと全ての決裁権限者は学校理事会になってしまう。いくらまではどこに決裁権限があるといった権限規定が必要。

→日本人会も同様に権限規定がないが、日本人会は処理する案件が少ないため、回っている。日々動いている学校ではそうはいかないように感じる。

→以前の学校は、今よりも小さい組織で回っていた。

・学校問題の可視化を行うにあたり、組織のマネジメントが弱い。理事会に上がってくる数字が間違っており、且つ、その場で口頭で修正されるのが現状。議題が生煮えの状態でも理事会に上がっており、色々な角度から議論が行われる為、何も決まっていけない。ただ、参加者皆がそれぞれの立場で一生懸命なのは伝わる。

・来年の決算は今年の決算より悪くなる見込みの為、生徒数を増やすことができなければ、授業

料を増やさなければならないという負のループに陥っている。体育館建設の為の借入れが原因ではなく、支出が収入を上回っているのが根本的な原因。コロナ前から同じ状況の為、コロナが原因ではない。銀行から体育館建設費用を借入れた際の契約を確認したが、日本人学校の収支の状況を受けて、銀行に元本の返済を突然せまられる可能性もある非常に危険な状況。ついては、日本人会理事会として日本人学校にもっと注力すべきである。

- ・学校問題について、今後どうすべきかをタスクフォースとして可視化させていく。
- ・実際に通っている生徒がいるので、最終的に学校を閉校するという結論に至ったとしても、突然つぶすことはできない。2～3年かけて学校を転校してもらおうといった措置が必要。

#### (9)その他2

- ・来期の理事について
  - 今後、選挙管理委員会を中心に候補者探しを進めるが、今期の理事の皆さんにも候補者探しに協力してほしい。
- ・元会長・名誉会員であられた井上明さんのご逝去について
  - 井上明さんは元会長(複数回)であり、名誉会員でもあられた為、日本人会として弔電を打つという整理とし、今後も、元会長&名誉会員であられた方のご逝去に際しては弔電を打つ整理としたい。

次回の理事会は3月16日(木)13時半から

以上